

第87回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

- 日 時 令和5年9月21日（木）・19時開会
- 場 所 相模湖総合事務所 3階 大会議室
- 出席委員数 16名出席（5名欠席）
- 傍 聴 者 0名

1 開会

2 代表あいさつ（河津代表）

○河津代表欠席の為、森久保副代表からあいさつの後、代表の司会により進行了た。

3 協議事項

（1）令和5年度地区まちづくりを考える懇談会までの予定について
事務局から標記の件について添付資料に沿って説明があった。
添付資料のとおり承認された。

（2）令和5年度地区まちづくりを考える懇談会のテーマシートについて
事務局から標記の件について添付資料に沿って説明があった。
添付資料のとおり承認された。

意見等（○意見・質問、⇒回答）

○自分が子供の頃はバスもタクシーももっと本数があった。年々不便になっている。ただ、プレジャーフォレストは年々お客が増えているように見えることもあり、プレジャーフォレストを巻き込む形でバスの増便を考えてはどうか。

⇒プレジャーの運営母体である富士急バスに来てもらえないかという話を聞いたことがあるが厳しいとのこと。

○既存のタクシー会社に相模湖駅前に常時来てもらうようにするのは難しいだろう。今までタクシードライバーをしてきたが、相模湖に新たな民間のタクシーを入れるのは難しいだろうという感触がある。市に関わってもらって新たに立ち上げる必要があると思う。スマホアプリですぐに来てもらうというようなものがあれば高齢者の方は使っていただけだろう。

ドライバーは確保できるだろうが、運行管理についてはなかなか難しいと思う。来年すぐというのは難しいだろうから2年後3年後を見据えてお話をしていきたい。

○白タクについての話を国の方で検討するという話が出ている。そうしたものを推し進めていきたい。

⇒タクシー会社と既存のタクシーについてタクシー会社の看板を背負っているの

とでは、社員への教育や安全の確保等保証されうるものも変わってくる。

地区でスーパーなどの需要のあるところまでの料金の設定を考える必要がある。普通のタクシーの値段だと使わないだろう。

既存のタクシーの概念とは違うものであると考える必要がある。こうした取り組みをすれば、市や運輸局等いろいろなところと話をしていく必要があると思う。

○タクシーに限らず、いろいろな既得権に縛られず、地域の人が本当に必要な交通手段を模索していく必要がある。

(3) 令和5年度地区まちづくりを考える懇談会の進行概要・想定質問要旨について

事務局から標記の件について添付資料に沿って説明があった。

進行概要については、添付資料のとおり承認された。

想定質問要旨については、今回出た意見を反映して次回会議にて再度協議する。意見等（○意見・質問、⇒回答）

○循環バスの話についてはあまりにも具体性がない。もう少し案を出すにしても具体性を持たせるべきだ。

○先ほど話したタクシーの件だが、車はリースで確保できれば初期投資はそこまですりかからない。運行管理の人員を2名ほど確保できれば可能である。市から補助金をもらえれば、新たなタクシーの運行は可能であると考ええる。

今、相模湖で導入できそうなのは循環バスのような乗り合いタクシーか、従来型のタクシーを地域にあった料金で運行するぐらいだと思われる。

○近隣の大きな駅で導入されているパークライドの取り組みと今議論に上がっていたライドシェア等の取り組みを組み合わせたものを導入するといった質問はできないか。

○藤野のスクールバスの話が出ていたが、近隣の企業バスを活用することはできないか。上野原の東芝エレベーターはかつて一般向けにも開放されていた。現在でも通学の子供たちへは開放されている。

(4) 令和4年度地区まちづくりを考える懇談会市等の発言に対する現在の対応状況について

事務局から標記の件について添付資料に沿って説明があった。

添付資料のとおり承認された。

4 各部会等からの報告

○各専門部会長から各専門部会の取組状況について説明があった。

・産業・観光専門部会の中里部会長からダムカレースタンプラリーの進捗についての報告があった。

・子ども・若もの専門部会の藤井副部会長から前回まちづくり会議から特段動き

はないが、10月5日に相模湖地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会が教育委員会主催で行われると報告があった

- ・地域ケア会議の遠藤委員から会議の内容について別紙の通り説明があった。

5 その他

- ・中里副代表が相模湖観光協会の事務局長を退任することに伴い、まちづくり会議の委員からも退任すると報告があった。

6 閉会

- 森久保副代表による閉会

以 上

第 87 回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 次第

日 時 : 令和 5 年 9 月 2 1 日 (木) ・ 19 時 ~
場 所 : 相模湖総合事務所 3 階 大会議室

1. 開 会
2. 代表あいさつ
3. 協議事項等
 - (1) 令和 5 年度地区まちづくりを考える懇談会までの予定について
 - (2) 令和 5 年度地区まちづくりを考える懇談会のテーマシートについて
 - (3) 令和 5 年度地区まちづくりを考える懇談会の進行概要・想定質問要旨について
 - (4) 令和 4 年度地区まちづくりを考える懇談会市等の発言に対する現在の対応状況について
4. 各部会等からの報告
5. その他
6. 閉 会

相模湖地区まちづくりを考える懇談会予定表
(11月30日開催までのスケジュール)

日程	会議予定等
9月14日	まちづくり会議役員会
9月21日	まちづくり会議全体会 (※ここまでにテーマを決定)
10月12日	まちづくり会議役員会
10月13日	11/1号地域情報紙掲載出稿期限
10月19日	まちづくり会議全体会 (※この会議にて当日資料の承認)
10月23日	まちづくり懇談会テーマシート提出期限
11月16日	まちづくり懇談会当日資料提出期限
11月30日	まちづくり懇談会当日

- 令和5年度相模湖地区まちづくりを考える懇談会日程
- ・日時 令和5年11月30日(木) 18:00~19:30
 - ・会場 相模湖総合事務所 3階大会議室
 - ・市出席予定者 市長、テーマ所管部署局長 他

令和5年度 地区まちづくりを考える懇談会 「地域の未来を語ろうwith市長」全体の進行

(司会進行：まちづくり会議副会長等)

	時間	内容	対応者
開 会	18:00	1 懇談会開会の宣言	副代表等
	~18:10	2 出席者の紹介	副代表等
	18:10 ~18:20	3 まちづくり会議会長あいさつ 令和4年度地区まちづくりを考える懇談会での 市等の発言に対する現在の対応状況	代表
	18:20 ~18:25	4 市長あいさつ	市長
懇 談 会	18:25 ~18:35	5 テーマの概要及び地域での取組状況等の説明 テーマ概要の説明：5分程度 地域での取り組み状況の説明：5分程度	代表 役員等
	18:35 ~18:40	6 テーマに関連する区や市の取組み等について説 明：5分程度	区長・局長・部長
	18:40 ~19:15	7 テーマについて懇談：40分程度	
	19:15 ~19:20	代表より懇談まとめ	代表
	終 了 懇 談	19:20 ~19:30	8 市長感想（全体の感想、地域への支援、今後の 市の取組みの方向など）
		9 懇談会閉会の宣言	副代表等

相模湖地区まちづくりを考える懇談会

「地域の未来を語ろう with 市長」テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する(二つ以内)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- ② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	中山間地域の人口減少に対応した住みよい環境づくりについて (相模湖地区の交通機関の在り方について)
内 容	相模原市では本年6月2日に令和2年国勢調査を元に2070年までの将来人口推計を公表した。 その中で相模湖地区では2020年の人口7,695人から、50年後の2070年に1,683人まで減少するという推計が発表された。 現状からも、2025年の推計人口7,110人と近い7000人強という数字が2023年4月の実数として出ており、推計値を上回る現象の一途をたどっている。 この人口減少に歯止めをかけることは難しく、人口が減少しても地域として存続することができるようなまちづくりを行っていく必要がある。
担当部署	都市建設局まちづくり推進部交通政策課、教育局学務課

■上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	相模湖地区における公共交通機関は、JR相模湖駅を拠点として近隣地区を結ぶ路線バスが運行されている。近年、利用者の減少により地区内の路線は経営状況の見直しによる減便が行われている。 また、唯一のタクシー会社も昨年の12月に廃業し、隣接地区のタクシー会社に対応いただいているが、ドライバー不足の影響により公共交通サービスを受けることのできない地域住民、観光客が増加するなど危機的な状況となっている。 市においても吉野・与瀬地区、内郷地区において、「乗合タクシー」を運行しているが、コロナ禍以後利用者が減少し、運行継続基準を満たすことができず、減便や廃止の検討も視野に入った状態が続いており、運用の見直しが求められている。 公共交通機関は、通勤、通学、通院、買い物、公共施設利用など住民の日常生活の「足」として、更に自動車を運転しない高齢者などにとって特に欠かせない交通手段である他にも、相模湖を訪れる観光客にとっても欠かせないものとなっている。 こうした状況を解決するため、交通手段の在り方や乗合タクシー利用者の更なる増加策等について懇談を行う。
------	---

■地域トピックス（既存の関連資料等がある場合にはご恵与ください。）

地区の課題（テーマ以外にある場合）、アピールしたい点、工夫している点、良いところ、現在取り組んでいる活動など、市長があいさつで触れるべきこと、または触れてもらいたいこと。

ダムカレー、小原のモデル地区についての取り組み

〇〇地区まちづくりを考える懇談会
「地域の未来を語ろう with 市長」テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する(二つ以内)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- ② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	子どもたちの居場所づくりについて
内 容	<p>当〇〇地区は、子どもたちの遊び場となるような公共施設が少なく、居場所づくりが課題であるが、住宅地の周辺には自然が豊富にあることから、子どもたちが健やかに成長していくための地域資源に恵まれていると考えている。</p> <p>子どもたちが健やかに成長していくためには、様々な体験を通して豊かな心を養っていくことが重要であり、当〇〇地区では、子どもたちの居場所づくりのための取組を実施しているが、自然を生かした取組については、まだ行えていない現状がある。</p> <p>現在、当地区で実施している取組についてご説明するとともに、自然を生かした居場所づくりについて、市と地域が協働して行うことができる取組について懇談したい。</p>
担当部署	〇〇課、〇〇課

■上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当〇〇地区では、子どもたちの居場所づくりの活動として、平日の空き時間を利用して、自治会館及びその敷地内を子どもたちの遊び場として開放し、地域の住民が交代で見守り役を担っている。 ・〇〇公民館を会場として、2か月に1回、こども食堂を開催している。徐々に参加人数が増えてきており、次年度からは毎月開催したいと考えている。 ・子どもたちが地域の資源である自然に触れ、体験することで、健やかに成長していくための環境づくりについてはまだ十分ではなく、貴重な地域資源が生かされていないと感じている。
------	--

■地域トピックス（既存の関連資料等がある場合にはご提供ください。）

<p>地区の課題（テーマ以外にある場合）、アピールしたい点、工夫している点、良いところ、現在取り組んでいる活動など、市長があいさつで触れるべきこと、または触れてもらいたいこと。</p>

相模湖地区の交通機関の在り方について想定質問要旨

- 要点1 相模湖地区乗合タクシーの更なる利用促進に向けた取り組み
⇒利用実態や課題を踏まえ、説明する。
(1) 利用申し込み方法の見直し
(2) 目的地の延伸
(3) タクシー機能の追加（観光客、個人事情、冠婚葬祭等）
- 要点2 地区全体を網羅する循環バス運行の取り組み
⇒買い物支援、診療所通院、娯楽施設、駅等を循環するバスの実証実験について
- 要点3 ライドシェア実施の可能性
⇒本市における現状と課題、実現可能性について
- 要点4 グリスロの導入について
⇒城山地区で行っている実証実験の状況や相模湖地区への導入の是非について
- 要点5 藤野のスクールバスの空き時間の活用について
⇒藤野のスクールバスは登下校の時間以外は空いている。相模湖地区を含む多用途の運用について
- 要点6 フリートーク

令和4年度 地区まちづくりを考える懇談会における進捗状況調査依頼票

地区名：相模湖地区

<p>テーマ</p>	<p>魅力あるまち、住みやすいまちづくりについて (地域の実情に見合った子育て支援策について)</p>
<p>担当課</p>	<p>子ども・若者支援課</p>
<p>懇談会での 発言等</p>	<p>移住の促進、特に子育て世帯に住みやすいまちとして選ばれるためには、我々が地域の魅力を一層引き出し、発信していくことは言うまでもないが、安心して子育てができる環境づくりや、子育てに対する市の支援策も重要であり、必要である。</p>
<p>懇談会での 市の発言</p>	<p>学校の施設をこども達の居場所として、自主的に遊べる場として活用する「放課後こども教室」という事業を、市内の4つの小学校で実施している。これは、5時頃まで、ランドセルを学校内に置き、遊びや勉強等の活動をしてから帰るというもので、近隣では根小屋小学校で実施している。ただ、人の手配や学年ごとに下校時間が異なる等の課題があるため、教育委員会と連携しながら、実施に向けて取り組んでいきたい。当然、児童クラブも並行して開所するため、児童クラブを利用する児童は5時以降も学校に残ることができる。 こうした取組も含め、こどもの居場所づくりについては、前向きに取り組んでいきたい。 (杉野こども・若者未来局長)</p>
<p>確認したい 対応状況</p>	<p>上記の市の発言で「放課後こども教室」の事業に取り組んでいくと言及されているが、この事業について具体的な事業開始の目途についてご確認したい。</p>

※対応状況調査依頼票は、1案件1シートで提出してください。

令和4年度 地区まちづくりを考える懇談会における進捗状況調査依頼票

地区名：相模湖地区

<p>テーマ</p>	<p>魅力あるまち、住みやすいまちづくりについて (地域の実情に見合った子育て支援策について)</p>
<p>担当課</p>	<p>子ども・若者支援課</p>
<p>懇談会での 発言等</p>	<p>移住の促進、特に子育て世帯に住みやすいまちとして選ばれるためには、我々が地域の魅力を一層引き出し、発信していくことは言うまでもないが、安心して子育てができる環境づくりや、子育てに対する市の支援策も重要であり、必要である。</p>
<p>懇談会での 市の発言</p>	<p>児童クラブの状況について、障害をお持ちの支援級の方は6年生まで受け入れているが、それ以外は原則3年生までの受入れである。ただし、モデル的に市内数か所で4年生までを受け入れており、相模湖地区では、平成30年度に桂北小学校、令和3年度に千木良小学校、内郷小学校で4年生までの受入れを開始した。一方、旧市域の状況は、児童数も多く場所の確保等も困難であり、小学校3年生まででも待機児童が生じている。 今年の児童クラブの利用者数は、桂北児童クラブが14人、うち4年生は1人。千木良児童クラブが11人、うち4年生は1人。内郷児童クラブが27人、うち4年生は6人である。こうした状況も踏まえ、市の計画としてこどもセンターや児童館を新たに設置するというのは財政面からも厳しい。ただし、児童クラブの対象者については、今後広げていく必要があると思っており、相模湖地区等の中山間地域については、6年生までの拡大を先行して実施していきたいと考えている。 (杉野こども・若者未来局長)</p>
<p>確認したい 対応状況</p>	<p>上記の市の発言で「児童クラブ」の対象者を拡大していきたいと考えている、と言及されているが、対象者の拡大についていつ頃開始できるかを確認したい。</p>

※対応状況調査依頼票は、1案件1シートで提出してください。

第2回相模湖地域ケア会議地域づくり部会報告

- ◇日時 令和5年8月29日(火)午後1時25分～午後3時30分
- ◇場所 相模湖総合事務所3階 A 会議室
- ◇出席者 別紙名簿参照(委員出席5名・事務局6名)
- ◇内容

1. 開会

石井部会長のあいさつにより開会。

2. 議題

(1)地域で取り組む買い物等支援について

老人クラブ連合会大神田氏より、検討内容について報告。

・おしどり号を利用した買い物ツアーについては、関口と増原の単位老人クラブにて検討している。関口地区は役員から利用してみる。10:00頃のバスでマルエツへ、昼頃のバスで帰ってくる予定。利用後、感想なども併せてPRしていきたい。

・増原については江藤会長より、役員による試行実施と、美化活動の際のPR等を行う予定と聞いている件を職員から報告。

意見交換(○委員 ●事務局)

○以前は相模湖病院の患者が、乗り合いタクシーでマルエツに買い物に行き、店内の休憩所でお茶を飲んだりして過ごす等の利用の仕方があったようだが、コロナで休憩所が閉じてしまい、利用が少なくなってしまった。

○頻繁に利用している人が固定されており、多くは高齢者である。そういった方が亡くなれたりすると、利用率が減ってしまう。まんべんなくいろいろな方が利用して、利用率を上げることが大切である。

●老人クラブの役員は運転できる人たちが

○普段は自家用車で買い物に行く人達。でも元気なうちに行ってみることも大事だと思う。

●車で行くより体力を使うと思うが、健康のためにもみんなで利用されるとよいのではないか。

○健康維持のためにも、おしどり号の存続のためにも利用していきたいと思う。

●初めて利用する人もいるのか

○多くの人が初めて利用する。

●老人クラブだけでなく、百歳体操等、他のところにも広げていってほしい。

○やってみよう、と気持ちが動くのは、仲間から誘われたり、様子が分かったりすること。一方的にやってくださいと言ってもなかなか影響されない。日ごろの付き合いの中で誘われたりすると行ってみようかな、という気になる。

・けんこう号を利用した取り組みについては、地域づくり部会の事業での利用枠を活用した事業について事務局案を提出。現在の百歳体操の担い手や参加者への介護予防プログラムの体験会と交流。作業部会として百歳体操の担い手をメンバーとした打合せ会を行い、年度内に数回実施予定であることを説明。

- 取組は良いと思う。足がないといけない人もいたので有効活用できればよい。
- 会場はリフレッシュセンターとのことだが、総合事務所は利用できないのか。拠点としてぜひ利用させてほしい。条例があってもつかえるようにしてほしい
- 総合事務所は市民への貸出のルールがないため難しい。
- 千木良の百歳体操は1年間公民館を無料で利用できることになった。来年は有料になる。シニアサポートで対応すれば部屋代などは支払いができると思っている。
- 今回の事業は、地域づくり部会の事業として取り組む、それぞれの地区の百歳体操の担い手などがけんこう号でリフレッシュセンターに集まり、新たな介護予防体操などを覚えてもらったり、交流する機会にしたい。
- 既存の団体には、新たな人は入りづらいと言う声もあるので、そういった意識も取っ払ってほしい
- 担い手同士で交流して風通しもよくなればよい。
- 底沢でも百歳体操の立ち上げ相談が来ている。地区の民生委員が立ち上げに向けて頑張っている。
- 百歳体操には興味がわからないが、他のことはやりたいと言う人もいるかもしれない。他のスポーツなどもやってみると参加につながるのではないか。楽しんで継続して活動ができるとよい。社協で貸し出ししているカーレットとか、百歳体操の後麻雀をやるとか。いろいろなメニューがあると選べるのでよい。
- 関口の百歳体操は老人クラブに入っている人が参加しているイメージがあったが、周知のペーパーを作って、自治会回覧し、どなたでも参加できますとPRしている。参加者はあまり増えていないものの、情報を流し続けることが大切だと思っている。また、今年は、百歳体操の後に歌の練習をして、お祭りで披露した。
- 百歳体操のメンバーも高齢になってきており、外出が億劫になっていると聞いた。工夫として、サロンを午前中、百歳体操を午後の時間に設定し、1日で済むと参加がしやすいと言う声もある。
- シニアサポート活動は現在4団体。要支援の認定がなくても、事業対象者という枠で利用ができる。
- ➔部会として、作業部会の設置について了解された。

(2) 認知症理解普及啓発の取組について

・相模湖地区内でのチームオレンジとしての活動や取り組みの推進について、包括より説明。

○認知症サポーターの名称を変えたものか？

●認知症サポーターは一般的ではない、「チーム」として認知症の理解を進めることで一体感を持った普及啓発ができると考えている。認知症に関して様々な取り組みが進められている。9月のアルツハイマーデーに向けて、オレンジ色の花を育てている人や、ゆるやかな見守りをしている人など認知症への取組を継続している人たちがたくさんいる。

○「認知症サポーター」という名称は堅苦しい感じがする

●サポートを受ける立場ではない、と思う人もいると思う

○チームオレンジとして活動を始め、広げていけたらよい。

○地域での認知症サポーター養成講座などは開催できるか。どのように依頼すればよいか

●包括に依頼してもらえれば、自治会やサロンの単位でも受講者が5人以上いたら開催できる。

○認知症になった人が地域にいて、一人では外に出られなかったが、近所のある人と一緒に散歩ができるということがあった。世間体が気になり公には認知症とは言わないが、どのような対応をしたらよいか大勢の人が分かっていたら、役に立つこともあると思う。

○サポーター養成講座の名称は、別の名前に変更するとよいのではないか。

●「認知症と共に生きるまち」を目指して工夫をしていきたい。こんな活動が地域で取り組まれていますということを幅広く知ってもらいたい

○オレンジリングがもらえなくなってしまったが、なにかもらえるものがあると気持ち上がるのではないか。

○認知症は実態が分かりにくい。身近にいればわかるかもしれないが、自治会の中でどうしたらよいか、ということもある

●個別に把握しているケースもあるが、個人情報のこともあり、地域づくり部会では詳細を事例として紹介できない。個別事例部会等でケースを扱っている。

○認知症基本法とはどんなものか。

●認知症の方が暮らしやすい地域づくりに取り組むことと、本人の力を活かしていくという方向が示されている。

肌感覚として、今はまだ認知症になったら怖い、不安なのでなりたくない、という相談が多い。これからは多少忘れても、地域で支え合って生活していける、支えがたくさんあるから、認知症になっても大丈夫、という考え方にシフトチェンジしていくことになる。その支えを地域の中で作っていく。それを「チームオレンジ」としたい。

- ゆるやかな見守りや支え合いが一番大事な考え方となっている。
- サークルなど活動している中で、「おや？」と思うこともある。民生委員や OB などが相談を受けて、包括に相談してみて、と声をかけてくれることもある。
- いろいろな取り組みがあるので、取り組みを発表などしていったらいいのではないか。まずは今やっていることを広めていけたらよいと思う。
- 認知症の方への基本的な対応の仕方があると思うので学ぶことが出来れば偏見や人権を無視するようなことは無くなる。声掛けが適切だったかどうかの確認もできると思うので研修会など、学ぶ機会が必要である。
- 地域の中に気になる人がいて、緩やかに見守ってくれる人もたくさんいる、事例になっていなくても存在している。
- チームオレンジとして有効活用したい
- 認知症サポーター養成講座もうけてもらったほうが良い
- 養成講座については自治会長会議にて周知させてもらった。
- 地域での現状はどうなのか。認知症の介護等を経験した人が担い手となって活動が広がって行けばよいと思う。実態についての勉強会等があるとよいのでは。
- 認知症本人の気持ちに寄り添うことが大切。次回の会議の際に当事者視点から作成した DVD があるのでそちらを見てもらいたい。
- 緩やかなささえあいが必要と思うが、支える人と支えられる人の関係が固定化されてしまうと、ゆるやかな見守りや関わりではなくなってしまうこともある。ゆるやかな、と言うところが良い。隣近所と顔があつたら「よう」と声をかけるくらいでいいんだよな、という声もある。認知症だけではなく他のことにも共通のことと思う。
- 「チームオレンジ活動」と名付けて広めていったらいいのでは
- 既存の活動を改めて「チームオレンジ」のくくりで発信することは地域づくり部会だより等を活用することで可能である
- おやっと思ったらすぐに相談できる先が分かるようになるとよい。

→地域における認知症の人への支援体制の整備について、新たなことを始めるわけではなく、今すでに取り組んでいて、無理なく継続できる範囲のことについて、相模湖地区内でも既存の取組を再認識し、相模湖版チームオレンジとしての取組をあつめていくことや、そういった取り組みを地域づくり部会で応援していく方向となった。

3. 報告事項

- (1) ちょこボラ相模湖実績報告
資料のとおり説明。

(2) 令和4年度地域づくり部会活動費の報告

○今回初めて見る資料か。

●急遽地域づくり部会で報告するように市から指示があったものである。平成28年度から仕組みが変更となった。現在は地域づくり部会の予算として会議費70万円、活動費30万円が包括の委託費に含まれている。活動費については地域づくり部会主体で事業的なことをする場合に活用できるものである。

●令和4年度は地域情報誌「お達者ちょう」の発行費と部会の事務費、部会だより発行費等合計で342,666円の支出があった。令和3年度は主に「災害時に備えてシート」の作成費用として活用。残った費用は、市に返還する。

○他地域で、どのようなことに使っているか知りたい

●次回の部会にて、参照できるようにする。

4. その他

(1) 身近な交通に関する市民アンケートについて
事務局より、アンケート協力についてのお願い。

(2) 令和5年度地域づくり部会スケジュールについて
資料のとおり、今後の会議開催日程について確認した。

5. 閉会

大神田副部会長あいさつにより閉会した。

以上